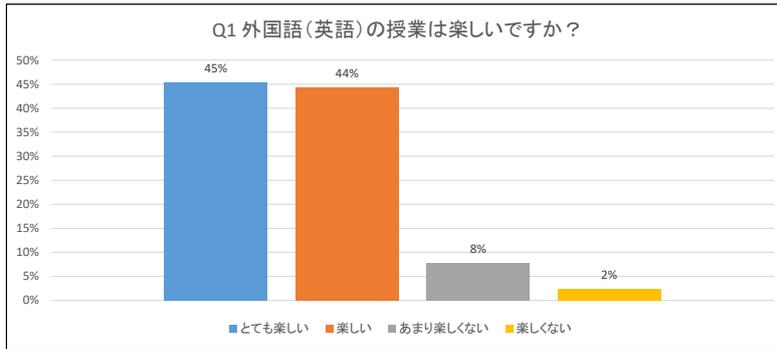


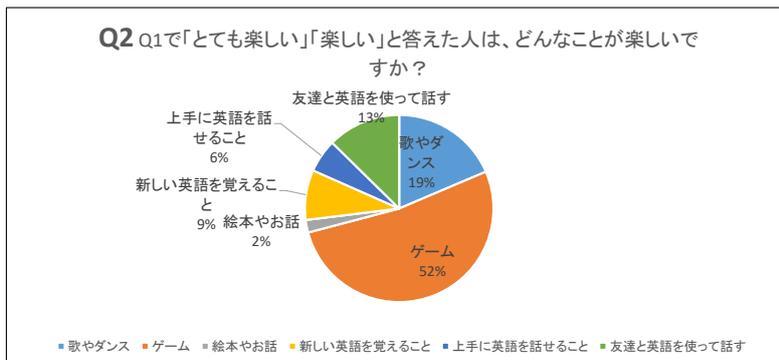
令和5年度外国語(英語)の授業に関する児童用アンケート調査結果の分析・考察(宇城市)



【Q1について】

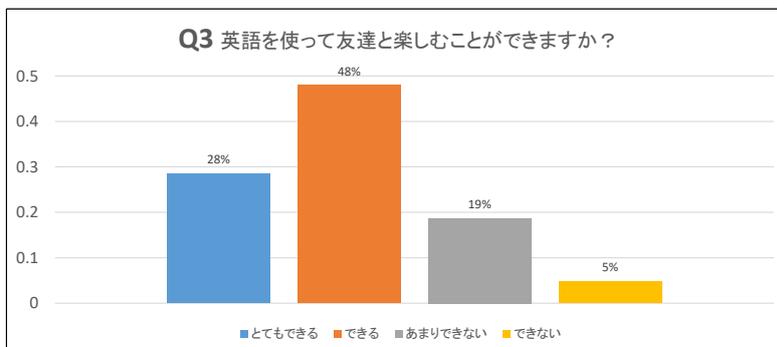
全体的に見ると、「とても楽しい」「楽しい」の割合が約9割であり、昨年度、一昨年度と同じであった。学年ごとに見てみると、特に、1・2年の英語活動については、95%の児童が楽しみながら学習に取り組んでいることがうかがえる。

一方、「あまり楽しくない」「楽しくない」と答えた児童が約1割であり、高学年になるにつれてその割合が増えてきている。その原因としては、学年が上がるにつれて学習内容が難しくなったり、英語に対する苦手意識が出てきたりする、ということが考えられる。このことから、学年の発達段階に応じて、活動内容や学習内容の工夫改善を図ることや、興味・関心を高めるような教材・教具等を工夫していくことが大切である。



【Q2について】

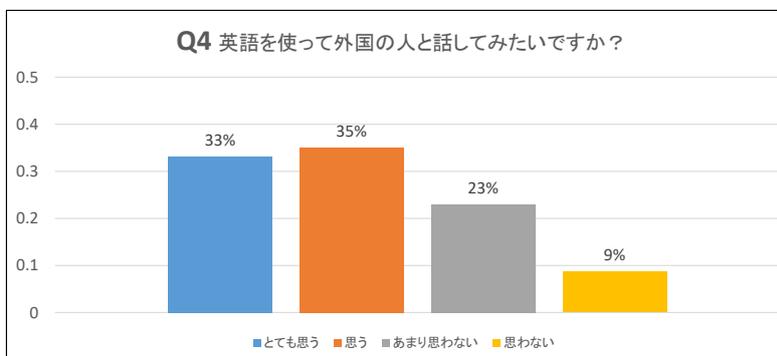
全体的な傾向としては、「ゲーム」「歌やダンス」が楽しいと答えている児童が多く見られる。学年ごとの傾向としては、「歌やダンス」「ゲーム」については低学年で「楽しい」と答えている児童が多く、高学年になるにつれてその割合は減少している。高学年で割合が増えているのが、「新しい単語を覚えること」「上手に英語を話すこと」「友達と英語を使って話すこと」である。学年が上がるにつれて、自分が学んだことを実際に使ってみることで、英語に対する興味・関心が高まっていくと考えられる。このことから、低学年では英語に対する興味・関心を高める活動を中心に、上学年になるにつれて英語によるコミュニケーションを重視した活動を取り入れることが大切である。



【Q3について】

昨年度と比べると、「とてもできる」「できる」の割合が78%となり、昨年度と同じ傾向である。授業では、友達同士で英語によるコミュニケーションを図ることを楽しんでいる児童が多いことがうかがえる。その反面、「あまりできない」「できない」と回答した児童の割合は24%であり、学年別に見ても、ほぼ同じ傾向となっている。

基本的な単語や表現については、授業においてしっかり定着を図ることで、自信をもって話したり会話をしたりできるようにすることが大切である。また、学んだことを生かしてコミュニケーションを図ったり、少しずつレベルアップできるように学習活動を工夫したりすることも大切である。



【Q4について】

「とても思う」「思う」が68%、「あまり思わない」「思わない」が32%で、昨年度と同じ傾向となっている。ある学校では、シンガポールの中学生との交流を経験したことにより、前年度と比べ「とても思う」「思う」と回答した児童が大幅に増加していた。このことから、実際に外国の人と触れ合う機会があれば、英語を使って話してみたいと思う児童も増えていくと考えられる。ただ、学校によっては、ALTの先生以外に外国の人と触れ合う機会がほとんどないところもある。できるだけALTの先生と会話をする機会を多く設定することや、身近な外国の人に自分から積極的にコミュニケーションを図っていくことができるような児童の育成を図ることが大切である。

【保護者・学校関係者からの意見・要望等】

保護者や学校関係者からは、「早いうちから英語に親しむのはとてもいい」「担任の先生が中心になって授業を進め、うまくALTの先生を活用されている」「ALTの先生の発音が聞けることは、子供たちにはとてもありがたい」等の肯定的な意見が多く出されていた。低学年から取り組むことにより、抵抗なく英語に親しむことができていくことに対して、高評価となっている。

今後も、積極的に英語の授業公開を行うように各学校にも働きかけていきたい。

【考察・今後の展望等】

全体的に見ると、ほぼ昨年度と同じような傾向が見られたことにより、これまでの宇城市としての取組の積み重ねが結果に反映していることがうかがえる。宇城市の教職員の日頃の真摯な取組により、継続的に一定のレベルが保たれていることが分かる。

課題としては、特例校として取り組んでいる1・2年の英語活動の教材・教具等が十分ではないことが挙げられる。各学校とも連携しながら、子供たちがより意欲的に英語の学習に取り組めるような教材・教具等の学習環境を整備していく必要がある。